

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 4年 3月 20日

事業所名 こばんはうすくら 南越谷教室

保護者等数(児童数) 20人 回収数 13人 割合 65%

| | チェック項目 | はい | どちらとも いえない | いいえ | わから ない | ご意見 | ご意見を踏まえた 対応 |
|--|--|---|---------------|-----|-----------|-------------------------------|--|
| 環境・ 体制整備 | 1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか | 10件 | 2件 | 0件 | 1件 | マンションだが空間の広さは適切。 | 危険箇所など査定しながらスペースを確保していく。 |
| | 2 職員の配置数や専門性は適切であるか | 12件 | 1件 | 0件 | 0件 | 良い先生方である。 | 配置は適切なので専門性をさらに向上させていく。 |
| | 3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか | 9件 | 1件 | 0件 | 3件 | 楽しい室内空間である。 全体的にきれいな部屋。 | 視覚的にわかりやすい環境設定を行っていく。 今は何をやる時間かわかるよう構造化された環境設定も検討していく。 |
| | 4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか | 11件 | 1件 | 0件 | 1件 | 居心地は良いと思う。 | 毎日の清掃、消毒に加えてコロナ対策としての消毒も徹底する。 おもちゃや教材など児童が手にする機会が多いものについては新たに消毒機器を導入する。 |
| 適切な 支援の 提供 | 5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか | 13件 | 0件 | 0件 | 0件 | 先生の計画が良く書かれている。 | 達成度を踏まえた計画となるようさらに保護者との連携に努める。 |
| | 6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか | 11件 | 1件 | 0件 | 1件 | ドリルや連絡帳のコメントがわかりやすく、支援計画が詳しい。 | 児発管の本部研修参加により、計画作成技術の向上を図る。 |
| | 7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか | 12件 | 0件 | 0件 | 1件 | 本人の現状はなかなか難しいが、沿っていると思う。 | 毎日のミーティングにおいて支援計画に沿った支援予定を共有している。 |
| | 8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか | 12件 | 0件 | 0件 | 1件 | 毎回新しい文面も書かれている。 | 職員同士で話し合いながらプログラムの立案を行う。 |
| | 9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか | 5件 | 2件 | 5件 | 1件 | もともたないのではないかと。 | プログラムとして児童館での活動を設定したり、公園での活動を増やしていく。 |
| | 10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか | 13件 | 件 | 件 | 件 | 説明は十分であった。 | 契約時の丁寧な説明を継続する。 |
| | 11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか | 12件 | 1件 | 0件 | 0件 | わかりやすい説明であった。 | わかりやすい説明を心がけながら、保護者や児童の想いが伝えやすい関係性を築けるよう配慮していく。 特に児童の想いは、支援の中で出来る限り理解に努め、保護者とも共有していく。 |
| | 12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか | 5件 | 5件 | 0件 | 3件 | 今までにはなかった。あると良い。 | 相談があった場合だけでなく、支援の様子をお伝えする中でも保護者のニーズを探り、必要な支援につなげていく。 |
| | 13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができていくか | 12件 | 1件 | 0件 | 0件 | 先生方と相談しながらできている。 | 送迎時に支援の様子をお伝えする際に聞き取りした情報をしっかり職員間で共有したうえで、事業所としての視点をお伝えできるようにしていく。 |
| 保護者 への 説明 等 | 14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか | 11件 | 2件 | 0件 | 0件 | 電話でよく聞いてもらっている。 | いつでも相談しやすい関係性を築くために、電話だけでなくLINEなども活用し、ニーズがないか発信していく。 |
| | 15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか | 1件 | 1件 | 7件 | 3件 | コロナのため、ないのではないかと。あると良い。 | 授業参観の形で当日の利用児童の保護者に参加してもらう日程をコロナが落ち着き次第に設定する。 |
| | 16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか | 13件 | 0件 | 0件 | 0件 | 電話や直接相談しあっている。 | 直接お電話や連絡帳でお問い合わせいただけるよう周知している。 |
| | 17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか | 12件 | 1件 | 件 | 件 | 配慮されていると思う。 | それぞれの人格や特性を職員間で共有するよう努めている。 |
| | 18 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか | 10件 | 1件 | 0件 | 2件 | おたよりで知ることができている。 | 「こぼんだより」を再開する。 |
| | 19 個人情報の取扱いに十分注意されているか | 11件 | 1件 | 0件 | 1件 | 十分注意されていると思う。 | 事業所内での個人情報の保管方法について再検討し、鍵付きキャビネットでの施錠の徹底を行う。 |
| | 非常時 等の 対応 | 20 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか | 9件 | 1件 | 0件 | 2件 | 避難訓練が充実している。 |
| 21 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか | | 9件 | 1件 | 0件 | 3件 | 訓練できていると思う。 | 避難訓練の定期的な開催を継続していく。 実施報告を保護者にも周知する。 |
| 満足 度 | 22 子どもは通所を楽しみにしているか | 11件 | 1件 | 0件 | 1件 | とっても楽しみにしている。 | 子どもが楽しめた成果を家庭にも持ち帰るような工夫をしていく。 |
| | 23 事業所の支援に満足しているか | 11件 | 2件 | 0件 | 0件 | 最終的には子供したいかと思う。 | 支援の適切さだけでなく、児童や保護者の満足度にも配慮した支援が行えているか、カンファレンスを行って自己評価していく。 |

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 3月 20日

事業所名 こぼんはうすさくら 南越谷教室

| | | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 |
|----------|---------------------------------------|--|----|-----|---------------------------------------|--|
| 環境・体制整備 | 1 | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である | 7件 | 1件 | | 利用定員の厳守を継続する。 |
| | 2 | 職員の配置数は適切であるか | 6件 | 2件 | 職員人数は適切であるが連絡帳が書けない人が多く、業務量の偏りがある。 | 業務の偏りをなくしていくため、新人職員への指導、社員とアルバイトの役割分担を再検討する。 |
| | 3 | 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている | 8件 | 0件 | ・ポスターなどで視覚的に認知できるようになっている。 | スケジュールごとに何をやる時間かがわかる構造化の検討も行う。 |
| | 4 | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている | 8件 | 0件 | | 毎日の清掃、消毒の徹底を行う。 活動によってはバージョンを導入して集中しやすさや心地よさにも配慮していく。 |
| 業務改善 | 5 | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している | 5件 | 1件 | | 振り返りを強化するための、終礼を導入する。 |
| | 6 | 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている | 5件 | 2件 | | 今回の保護者評価と改善策を議事録にして職員へ周知徹底する。 |
| | 7 | 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している | 4件 | 4件 | | ホームページ公開の継続に加え、公開していることを、おたより等で周知する。 |
| | 8 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている | 0件 | 7件 | | 法人で第三者評価の導入を検討依頼する。 |
| | 9 | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している | 7件 | 1件 | ・ミーティング時に勉強会を行っている。 外部研修を活用したほうが良い | 定期的に行う事業所内研修に加えて本部で行う研修への参加も参加を進める。 |
| 適切な支援の提供 | 10 | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している | 8件 | 0件 | ・職員間で情報を共有し作成している。 | 支援計画作成の前には必ずカンファレンスを行っている。 |
| | 11 | 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している | 7件 | 0件 | | アセスメントシートを使用したアセスメントを行っている。 |
| | 12 | 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている | 6件 | 1件 | | さらに適切な支援内容となるように、本部の行う児発管研修に参加する。 |
| | 13 | 児童発達支援計画に沿った支援が行われている | 8件 | 0件 | | 毎日、支援の前に支援内容の確認と共有を行っている。 |
| | 14 | 活動プログラムの立案をチームで行っている | 8件 | 0件 | | 児発管が個々のプログラム立案を集約しながら、それぞれの職員が企画を行っている。 |
| | 15 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫している | 8件 | 0件 | ・記録を日々つけて確認しながら設定している。 | 児発管が個々のプログラム立案を集約しながら、それぞれの職員が企画を行っている。 |
| | 16 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している | 8件 | 0件 | ・ご家族と相談しながら苦手分野を把握し、個別活動に取り入れている。 | 一日のスケジュールの中に個別活動と集団活動を設定し、それぞれ実施、評価を行うことで支援計画に反映させている。 |
| | 17 | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している | 8件 | 0件 | ・朝礼の際に担当する子どもの支援内容を共有しているで流れがわかりやすい。 | 毎朝朝礼の実施、担当やスケジュールの作成、送迎表の共有を行っている。 |
| | 18 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している | 3件 | 5件 | | 終礼を導入する。 |
| 19 | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている | 8件 | 0件 | | 支援の記録だけでなく学習の実施記録も取っている。 | |
| 20 | 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している | 7件 | 1件 | | 児発管が定期的に現場に入ることによって日常的にモニタリングを行っている。 | |
| 関係 | 21 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している | 1件 | 7件 | | 事業所から必要に応じてサービス担当者会議の開催を呼び掛ける。 |
| | 22 | 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている | 5件 | 3件 | | 必要に応じてセルフプランの利用者には相談支援のご案内をしていく。 |
| | 23 | (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている | 件 | 件 | 該当しない | 該当しない。 |
| | 24 | (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている | 件 | 件 | 該当しない | 該当しない。 |

| | | | | | | |
|--|--|--|----|----|---|--|
| 機 関 や 保 護 者 と の 連 携 | 25 | 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている | 3件 | 5件 | | 移行先からの求めに応じて支援内容の共有は行っているが、より積極的にこちらから発信、聞き取りの機会も持っていくよう努める。 |
| | 26 | 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている | 2件 | 6件 | | 日常的には送迎時の短い時間の範囲内となるので、文書なども活用しながら情報共有に努める。 |
| | 27 | 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている | 3件 | 5件 | | 事業所内での困難事例など、相談先として支援センターなど活用する。 |
| | 28 | 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある | 1件 | 7件 | | 児童館や公園での活動を集団プログラムとして設定する。 |
| | 29 | (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している | 2件 | 6件 | | 特別支援学校の連絡会への参加をしていく。 |
| | 30 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている | 8件 | 0件 | | 連絡帳や送迎時だけでなく、いつでも相談の発信ができるようにLINEの活用も進めていく。 |
| | 31 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている | 5件 | 3件 | | 相談があった場合だけでなく、支援の様子をお伝えする中でも保護者のニーズを探り、必要な支援につなげていく。 |
| 保 護 者 へ の 説 明 責 任 等 | 32 | 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている | 7件 | 0件 | | 契約時の丁寧な説明を継続する。 |
| | 33 | 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている | 8件 | 0件 | | 丁寧な説明と同意を得ることの徹底を継続する。 |
| | 34 | 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている | 8件 | 0件 | | 適時、相談のニーズがある場合はお知らせいただけるよう周知する。 相談があった場合には、その日のうちにリアクションするようにしている。 |
| | 35 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している | 3件 | 5件 | | 授業参観の形で当日の利用児童の保護者に参加してもらう日程をコロナが落ち着き次第に設定する。 |
| 非 常 時 等 の 対 応 | 36 | 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している | 8件 | 0件 | | 相談があった場合にはその日のうちにリアクションするようにしている。 相談内容については児発管に集約し、職員間で話し合いの下、事業所としての意見としてお伝えするよう努めている。 |
| | 37 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している | 5件 | 3件 | | こぼんだりを再開する。 |
| | 38 | 個人情報の取扱いに十分注意している | 7件 | 1件 | *キャビネに施錠をしたほうが良い | 鍵付きキャビネットでの施錠を徹底する。 |
| | 39 | 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている | 8件 | 0件 | | それぞれの人柄や特性を職員間で共有するよう努めている。 |
| | 40 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている | 1件 | 7件 | | 県ボランティア団体の活用を検討。 |
| | 41 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している | 4件 | 3件 | | 発生を想定した事業所内研修を定期的に行う。 |
| 42 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている | 7件 | 0件 | | 避難訓練を毎月設定している。 | |
| 43 | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している | 6件 | 1件 | | 利用前のアセスメントで確認している。 | |
| 44 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている | 5件 | 2件 | | 食物アレルギー指示書を保護者に共有してもらおう。 | |
| 45 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している | 6件 | 1件 | | 終礼時にヒヤリハットがなかったか振り返りを行う。 | |
| 46 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている | 3件 | 4件 | | 虐待防止研修を少なくとも1回行う。 | |
| 47 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している | 4件 | 3件 | | 利用契約時に説明している。 身体拘束が必要となりうる場合はカンファレンスを行い検討したうえで保護者の同意を得る。 | |